

展示構成

4つのテーマから「かがく」の世界につながる「とりら」をひらきます

きみとめぐる

しぜん



© Kazuko Hirayama

身近な自然をじっくり観察すると、いろいろなものが見えてくる。生き物や植物の秘密を見つけにいこう。

身近な自然には、不思議がいっぱい！しゃがんだり、土の中にもぐったり、アリになったり、夜の世界を探検したりして、身のまわりにひそむ生き物や植物の秘密を探しにいきましょう。「自ら探して見つけること」の楽しさを感じていただけるコーナーです。

きみをしる

からだ



© Gen-ichiro Yagyu

体には不思議がいっぱい。自分の体を見つめなおして、その働きについて考えてみよう！

転んだら血が出るのはどうして？目ってどんな働きをしているの？知っているようでよく知らない自分の体について考えてみましょう。実際に自分の心臓の音を聞いたりしながら、体の不思議を見つめることのできるコーナーです。また、自分という存在や言葉について考えてみるという、「かがくのともし」ならではの展示もお楽しみいただけます。

きみをはぐくむ

たべもの



© Ryosuke Minooka

わたしたちが食べているものは、いったいどこからやってきたんだろう。食材が食卓にのぼるまでを追ってみよう！

部屋の中心には、「だいず」が「みそ」になるまでの過程を追った大きな丸い展示台。壁面には「かがくのともし」が描いてきた、食べ物にまつわるさまざまな場面が大集合します。命のもとをはぐくむ自然の広がりや、食材を食卓に届けるために働く人々の様子、そして食べることの楽しさを、目で見て感じていただけるコーナーです。

きみとたびする

のりもの



© Mutsuko Yokomizo

車に電車、飛行機に船。それぞれの魅力を捉えた絵本の複製原画を見ながら、実際の様子も想像してみよう。

展示作品

『どうろせいそうしゃ』 鎌田 歩 作
(2009年10月号)

『はしる はしる とつきゅうれっしゃ』 横溝 英一 作
(1999年10月号)

『ちいさなひこうきのたび』 みねお みつ 作
(2007年5月号)

『かもつせんのいちにち』 谷川 夏樹 作
(2018年3月号)

かがくのとも とは？

- 1969年に福音館書店から創刊された、1冊につき1テーマの子ども向け「かがく絵本」で、幼稚園・保育園・書店を通じて毎月販売中
- 2019年に創刊50周年を迎え、今までに600以上の作品を紹介
- 好奇心をもって世界を探索する楽しみを子どもたちに伝える絵本

みどころ

- 600以上あるかがくのテーマをギュッと凝縮！
4つのテーマに分けて「身近な不思議」に迫る

「しぜん」「からだ」「たべもの」「のりもの」という視点から、生活の中でうまれる疑問について考えます。内容は難しいものではなく、園児のお子さまにもわかりやすいように説明しています。



また、絵本のイラストも会場内をたくさん彩るので、視覚的にもわかりやすく、ワクワク感をより一層演出しています。実際に触って体感するコーナーもあり、さまざまな方法で子どもたちの疑問に向き合うので、大人にとっても新たな発見があるかもしれません。

- 本イベントは撮影OK♪ 「！」と感じた気持ちをいつでも振り返ろう

子どもたちは感情が揺れ動くとき、とてもいきいきとした表情をします。この展覧会には、「すごい!」「なんで?」「そうなんだ~」といった驚きや発見がたくさん詰まっています。本イベントは撮影OKですので、そういった驚きや発見に出会った時の、一瞬一瞬の表情を記録に残し、後でお子さまの成長の記録を振り返るのにもオススメです。



※写真は大阪展の様子

